

宮内彩の New Zealand Style no.7

zambesi

ニュージーランドを代表するブランド、ザンベシ。そのデザインを手がけるのはエリザベス・フィンドレー、通称リズ。ニュージーランドで最も古いデザイナーブランドの一つであるザンベシは、今年で25周年を迎える。ザンベシはニュージーランド、オーストラリアを通して、大御所ブランドとして評価されているが、北半球ではまだほとんど知られていない、アンダーグラウンドの要素を持つ。最近は欧米のファッションピープルの間でも「ニュージーランドのファッションが面白いらしい」という噂が流れているが、その火付け役となったのがザンベシだ。



1999年のロンドン・ファッションウィークに参加して以来、ロンドンのエージェントを通し、欧米でも静かに人気を高めている。過去2シーズンはロンドンでもコレクションを発表し、話題を集めている。「ニュージーランドやオーストラリアでは、我々は小さな池の大きな魚ですが、ヨーロッパでは大きな湖の小さな魚にすぎません」と彼女は言う。しかし、クールでフェミニンなイメージの黒中心の重ね着ファッションは、確実にファンを増やし、海外のセレブの間でもその名を密かに広めている。

大御所だというステータス、そして「インタビュー嫌い」という噂を耳に

していただけに、とつつきにくい、神経質なデザイナータイプを想像していたが、実際のリズはソフトで優しく、ナチュラルで暖かい女性だ。社内も、アトリエも、和気あいあいとしたムードが漂っている。

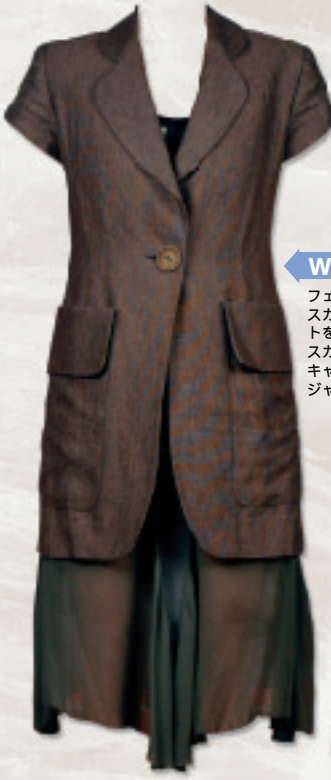
NZファッションウィークで、プラチナチケットと言われるザンベシのショー。「ファッションショーは映画やお芝居のように、クリエーションを表現する場で、とても充実感があります。私はすばらしいチームに恵まれているので、皆と一緒に協力して一つのショーを造り上げることは、とても大きな喜びを与えてくれます」

今回、ザンベシの洋服を間近に見て、その着易さと着こなしの幅の広さを改めて実感した。リズの作る洋服は、とてもフェミニンでありながら、どこかにアバンギャルドな味わいを秘めている。何通りもの着方が楽しめ、ショーで見せるコーディネートは単に一つの提案にすぎない。

この春夏は、アスレチックな味わいやギリシャ風なドレーピングなどを用いた、フェミニンなコレクションだ。「私たちのコレクションにはテーマはありません。単品が主体で、素材よりインスピレーションを受けています。顧客の皆様が自分なりの味付けで、着こなしを楽しんで頂ければ良いのです」

DINNER

スポーティなカモフラージュ柄のドレスの上に、フェミニンな網のドレスを重ねて。
カモフラージュワンピース\$270
ネットドレス\$385



WORK

フェミニンなレーヤースカートの半袖ジャケットを合わせて。
スカート\$360
キャミソール\$200
ジャケット\$675



WORK

衿もとにスカーフ付きのコートは、春先の装いにぴったり。
タンクトップ\$225
スカート\$235
コート\$765

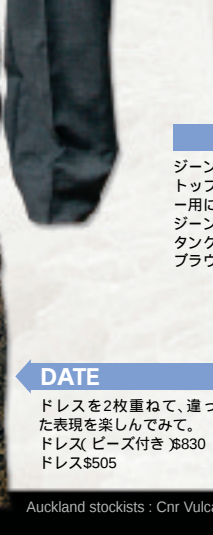
WEEKEND

シンプルな全身白のコーディネートで春らしさを。ドレスをタンクトップのように着こなして。
ジャケット \$810
ドレス \$270
スカート \$270



WORK

サンベシでもジャケットとパンツを選べば、じゅうぶんに仕事着に。
ジャケット\$945
パンツ\$415
タンクトップ\$200



DINNER

ジーンズでもレーシーなトップの重ね着でディナー用に。
ジーンズ\$360
タンクトップ\$595
ブラウス\$485

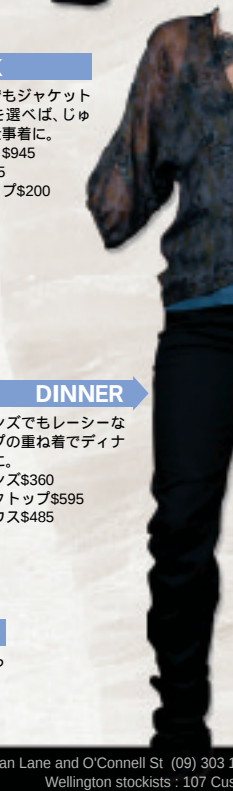


DATE

ドレスを2枚重ねて、違った表現を楽しんでみて。
ドレス(ビーズ付き)\$830
ドレス\$505

PARTY

きらきらと光るトップの鮮やかな色がパーティの注目の的。
ドレス \$640
タンクトップ\$315
パンツ\$295



ザンベシの服を着るのは、16歳から80歳までのあらゆる女性。共通する要素は、インディビジュアルな装いを楽しみ、自分に自信を持っているということ。2シーズン目を迎えるメンズコレクションも、同じザンベシのテイストを男物に反映してる。

7年間ファッション分野で働いた後、ザンベシを設立したリズとご主人のネヴィル。海外に進出するのも、自然の流れに任せただけ。ザンベシを全ての街角で見かけるようなありふれたブランドにする気は元々なかったと言う。

長女、マリサはファッションフォトグラファー、次女ソフィーは映像作家として活躍し、ザンベシの仕事にも貢献している。マリサが生まれる半年前に店を出し、ソフィーが生まれた年にブランドを始めたリズとネヴィル。ザンベシは子供達と共に成長していったと言っても過言ではないだろう。「最初は家で仕事をして

いました。二人が学校へ行き始めた時に、仕事場を家から外に移しました。すべてはゆっくりと、自然の流れに任せてやってきました。特に大きな目標があったわけでもありません。今でも、私にとっては、その頃と同じ気持ちです。だいぶ規模は大きくなりましたが...

私たちがワークルूमを訪れた日、リズはクリエイティブ・ディレクターのトゥーリアと共に、エアーニュージーランドとの打ち合わせから戻って来たところだった。



ニュージーランド航空のユニフォームの制作を依頼され、そのデザインに取り組んでいる真っ最中だ。「色々」と制約があるし、皆に似合う物を作らなくては行けないので、

とても難しいの。でも、楽しいわ」と微笑むリズ。新しいユニフォームは、ニュージーランドが自然と羊だけの国ではなく、ファッションブルなデスティネーションだということを世界にアピールしてくれるに違いない。



Profile photo Yui Hori

宮内彩 東京生まれ。西町インターナショナルスクールを経て、スイス、ルロゼ高校、米タフツ大学卒業。帰国後、パリ・ミラノ等世界のコレクションを取材。雑誌・新聞・テレビ・ラジオ等でファッション・コラムニストとして活動。オークランド在住の中村嗣氏と結婚のため、2000年より生活の拠点をNZに移動。01年、長男・章人君、02年、次男・天人君誕生。子育ての合間を見て、旅・食・住等ライフスタイル全般のコラムニストとして英語及び日本語で執筆活動が続けている。著書は近代文藝社「おしゃれのエッセンス / おしゃれのエッセンス旅コレクション」(母・大内順子と共著)等。NZでの生活のエッセイが載っているホームページはwww.ouchi-junko.com